

令和7年度 第2回技術部会

C4部会 2026年2月7日(土)

全国高等学校体育連盟体操専門部

==== 審議事項=====

1. 令和8年度 高校適用規則(競技規則、採点規則)の確認
2. 令和8年度 全国高校総体(兵庫)大会実施要項について
3. 令和9年度 全国高校総体(神奈川・千葉)大会実施要項について
4. 令和7年度 全国高校選抜(体操競技:長野・新体操:福井)大会について
5. 令和8年度 全国高校選抜(宮崎)大会実施要項について
6. 令和9年度 全国高校選抜(岩手)大会実施要項について
7. 令和10年度 全国高校総体(岐阜)大会進捗状況について
8. その他
 - (1) インターハイ改革について(別紙参照)
 - (2) 継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項等

==== 審議結果=====

1. 令和8年度 高校適用規則(競技規則、採点規則)の確認
 - ・令和7年度以降の用具の確認 (前回令和9年度以降の団体種目を決定済み)

	全国高校総体			全国高校選抜大会				
	団体競技	個人競技		団体競技	個人競技			
令和7年度	ボール3 フープ2	フープ	リボン	ボール5	フープ	ボール	クラブ	リボン
令和8年度	ボール5	フープ	ボール	ボール5	フープ	ボール	クラブ	リボン
令和9年度	ボール5	ボール	クラブ	フープ3 クラブ2	フープ	ボール	クラブ	リボン
令和10年度	フープ3 クラブ2	クラブ	リボン					
令和11年度								

	国民スポーツ大会					西暦	開催地
	団体競技	個人競技					
令和7年度	ボール3 フープ2	フープ	ボール	クラブ	リボン	2025年	滋賀
令和8年度	ボール5	フープ	ボール	クラブ	リボン	2026年	青森
令和9年度	ボール5	フープ	ボール	クラブ	リボン	2027年	宮崎
令和10年度	フープ3 クラブ2	フープ	ボール	クラブ	リボン	2028年	長野
令和11年度						2029年	群馬

- ・2025-2028 版規則に関する高体連ルールの確認(別紙)【主要役員承認】
団体リボン許容5m50cmを削除し、6m以上とする

2. 令和8年度 全国高校総体(兵庫)大会について
 - ・班ごとの練習(2県で1班)
 - ・全ての練習会場(アップ場も含む)に於いて割当を作成
 - ・割当練習時のフロア外でのボールの投げ上げについて、再度確認(フープは不可)
3. 令和9年度 全国高校総体大会(神奈川・千葉)実施要項について
 - ・班ごとの練習(2県で1班)にできるかどうか再検討
4. 令和7年度 全国高校選抜(体操競技:長野 新体操:福井)大会について
 - ・特になし
5. 令和8年度 全国高校選抜(宮崎)大会実施要項について
 - ・サブ会場アップフロアの広さを確認(要望としてはなるべく広くしてもらいたい)
6. 令和9年度 全国高校選抜(岩手)大会実施要項について
 - ・団体種目ボール5⇒フープ3クラブ2に訂正
 - ・7、参加申し込み(3)削除
7. 令和10年度 全国高校総体(岐阜)大会進捗状況について
 - ・特になし
8. その他
 - (1) インターハイ改革について(別紙参照) 特になし
 - (2) 継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項 特になし

*2025～2028年版(公財)日本体操協会競技規則・採点規則・シニアルールを適用する。

総則

点数配分と計算

難度 (D)
加算法：2つの審判団の合計

芸術 (A) 最高10.00点
実施 (E) 最高10.00点
・芸術的欠点
・技術的欠点

最終得点:

個人演技【得点の配点】

難度 (D) (加点)	芸術 (A) 10点満点(減点)	実施 (E) 10点満点(減点)
<p>・身体難度 (DB) 最も高い難度から8個 各身体グループから最低1個の難度 (ジャンプ ハ バランス T ローテーション o) 手具技術要素を伴って スローターンバランス ルルベで最高1個、踵について最高1個</p> <p>・回転を伴うダイナミック要素 (R) 最高4個(実施順に)</p> <p>・手具難度 (DA) 最高15個(実施順に) 床上の位置で連続するDA 最高3個の連続</p>	<p>芸術的欠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術的構造とパフォーマンス:構成の目的 音楽規範 ・アイデアのガイドと特徴 ・表現 身体の表現と表情 ・ダンスステップコンビネーション 最低2個 ・ダイナミックチェンジと音楽を伴うエフェクト 最低2個 ・つなぎ ・リズムと音楽の終了 音楽終了時の動き ・空間の使用 ・連続性の中断 	<p>技術的欠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の動き ・各手具の技術 ・全ての手具の技術

団体演技【得点の配点】

難度 (D) (加点)	芸術 (A) 10点満点(減点)	実施 (E) 10点満点(減点)
<p>・交換を伴う難度と伴わない難度 最高9個(実施順に) 交換を伴わない身体難度 (DB) 最低4個 最高5個 交換を伴う難度 (DE) 最低4個 最高5個 各身体グループから最低1個の難度を5名同時に実施 (ジャンプ ハ バランス T ローテーション o) 手具技術要素を伴って</p> <p>・回転を伴うダイナミック要素 (R) 最高1個</p> <p>・手具難度 (DA) 連係を伴う難度 (DC) 最低9個 最高14個(実施順) 必須:最低3個のCC・最低3個のCR・最低3個の複数投げ/複数受け</p>	<p>芸術的欠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術的構造とパフォーマンス:構成の目的 音楽規範 ・アイデアのガイドと特徴 ・表現 身体の表現と表情 ・ダンスステップコンビネーション 最低2個 ・ダイナミックチェンジと音楽を伴うエフェクト 最低4個 ・共同作業 (最低2秒必要) ①同時 ②コーラル ③素早い連続またはカノン ④コントラスト ・つなぎ ・リズムと音楽の終了 音楽終了時の動き ・フォーメーション 図形の多様性・大きさの多様性 ・連続性の中断 ・身体での造形/持ち上げられた位置 ・手具と選手間の接触 	<p>技術的欠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体の動き ・身体の動き ・各手具の技術 ・全ての手具の技術

高体連ルールについて(2026年2月決定)

1. 許容について

~~団体のリボンの長さは5m50cm以上とする。~~ 削除

2. 服装について

①レオタードについては日本体操協会採点規則を適用する。

細いストラップの付いたレオタードも許容される。ただし、教育活動であることを念頭に置き、華美にならないよう気をつける。

また、選手を守るという観点から、脚の付け根のレオタードのカットは、股関節の折り目を超えてはならない。

②練習着については、素肌を出さないことを条件に、セパレートタイプの着用を認める。

(キャミソールタイプの細い肩ひもは認めない。)

③化粧・髪飾り(ティアラ)は禁止とする。ピン等の光る素材も使用禁止(リボンを含む)。召集時に確認する。

④マークはレオタードの柄と区別がつくように、召集時に確認する。

⑤マークは学校名又は校章とする。(校名は略称でも可能。)但し、頭文字のみは認めない。

(校章が頭文字のみの場合は確認できるものを監督会議までに提出する。)

⑥マークを付ける位置については、ウェストラインより上とする。

マークの大きさ:次のいずれかの形状を包含する(上回る)大きさであることとする。

凹凸のある形状のマークでは、凸出部を直線で結んだ形状をその大きさとする。

(1)4.5cm×4.5cmの正方形

(2)4.0cm×5.0cmの長方形

(3)一辺が5.0cmの三角形

(4)直径が4.5cmの円

(5)一辺が4.5cmで辺の交わる角度が60°と120°の菱形

⑦服装減点…0.3

3. 手具について

①FIG規則の手具規格に従い使用すること。

②競技前の手具点検は行わない(採点規則適用)。但し、審判長が必要であると判断した場合は、競技後に点検する事がある。(減点なし)

③リボンについては、競技前に手具点検を行う。(長さの計測)

《同点順位の決定方法について》

団体競技

1. Eスコアが最も高いグループの勝利

2. (上記1)においても同点の場合、Aスコアが最も高いグループの勝利

3. (上記2)においても同点の場合、Dスコアが最も高いグループの勝利

4. (上記3)においても同点の場合は、同点順位となる。

個人競技

1. 合計したEスコア(2種目または4種目)が最も高い選手の勝利

2. (上記1)においても同点の場合、合計したAスコア(2種目または4種目)が最も高い選手の勝利

3. (上記2)においても同点の場合、合計したDスコア(2種目または4種目)が最も高い選手の勝利

4. (上記3)においても同点の場合は、同点順位となる。

* 全国選抜個人競技については、4種目の全ての点数が同点であった場合、上記に準ずる。

国スポにおける同点順位決定方法

1. 個人4種目のEスコアの平均と団体のEスコアの合計が最も高いグループの勝利

2. (上記1)においても同点の場合、個人4種目のAスコアの平均と団体のAスコアの合計点が最も高いグループの勝利

3. (上記2)においても同点の場合、個人4種目のDスコアの平均と団体Dスコアの合計点が最も高いグループの勝利

4. (上記3)においても同点の場合は、同点順位となる。

審判編成基準

審判長/副審判長(審判本部) ※レスポンスブルジャッジは審判長(DA1 審審判員)が兼ねる(地方大会は各都道府県、ブロックの裁量とする)

個人 競技	種目A	DB1	DB2	DA1	DA2	A1	A2	A3	A4	E1	E2	E3	E4
	種目B	DB1	DB2	DA1	DA2								
団体 競技	団体	DB1	DB2	DA1	DA2	A1	A2	A3	A4	E1	E2	E3	E4
線審(2名)						開催県							
計時(2名)						開催県							
補審(1名)						開催県							
セクレタリー(1名)						開催県							